

# 財務概況

## 経営成績の状況

	2020年3月期(百万円)	2021年3月期(百万円)	前期比(%)
売上収益	143,645	<b>134,732</b>	△6.2
営業利益	18,540	<b>17,858</b>	△3.7
税引前当期利益	18,756	<b>18,165</b>	△3.2
親会社の所有者に帰属する当期利益	13,746	<b>12,695</b>	△7.6

- 売上収益は134,732百万円(前期比6.2%減)となりました。国内においては、船用機器やメンテナンス事業が堅調に推移しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、主力の小型貫流ボイラやランドリー機器が低調に推移しました。海外においては、各国で新型コロナウイルス感染症の影響はありましたが、中国でボイラ販売が堅調に推移し、メンテナンス事業も堅調に推移しました。
- 営業利益は、新型コロナウイルス感染症による行動制限で費用の減少はありましたが、減収影響により、17,858百万円(前期比3.7%減)となりました。営業利益率は13.3%と、前期比で0.4%の増加となりました。税引前当期利益は18,165百万円(同3.2%減)、親会社の所有者に帰属する当期利益は12,695百万円(同7.6%減)となりました。

## セグメント別の損益状況

事業セグメント	売上収益			セグメント利益			
	2020年3月期(百万円)	2021年3月期(百万円)	前期比(%)	2020年3月期(百万円)	2021年3月期(百万円)	前期比(%)	
国内	機器販売事業	64,345	<b>60,416</b>	△6.1	5,194	<b>4,882</b>	△6.0
	メンテナンス事業	33,000	<b>34,797</b>	+5.4	9,414	<b>9,524</b>	+1.2
	ランドリー事業	19,040	<b>12,583</b>	△33.9	1,073	<b>178</b>	△83.4
海外	機器販売事業	20,717	<b>19,707</b>	△4.9	2,105	<b>2,054</b>	△2.4
	メンテナンス事業	6,484	<b>7,173</b>	+10.6	784	<b>1,236</b>	+57.6
その他および調整額	56	<b>54</b>	△4.8	△31	<b>△18</b>	—	
合計	143,645	<b>134,732</b>	△6.2	18,540	<b>17,858</b>	△3.7	

### 国内機器販売事業

国内機器販売事業は、船用機器においてはパラスト水処理装置の販売が堅調に推移しました。小型貫流ボイラおよび関連機器は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり低調に推移しました。この結果、当事業の売上収益は60,416百万円と前期(64,345百万円)に比べ6.1%減となりました。セグメント利益は、減収の影響により4,882百万円と前期(5,194百万円)に比べ6.0%減となりました。

### 国内メンテナンス事業

国内メンテナンス事業は、ボイラ有償保守契約件数の増加や提案活動の推進により、売上を伸ばしました。この結果、当事業の売上収益は

34,797百万円と前期(33,000百万円)に比べ5.4%増となりました。セグメント利益は、9,524百万円と前期(9,414百万円)に比べ1.2%増となりました。

### 国内ランドリー事業

国内ランドリー事業は、新型コロナウイルス感染症によるホテルや病院などのリネンサプライやクリーニング需要の減少により、お客様の設備投資意欲が大きく減退し、売上が減少しました。この結果、当事業の売上収益は12,583百万円と前期(19,040百万円)に比べ33.9%減となりました。セグメント利益は、減収の影響や無形資産の償却により178百万円と前期(1,073百万円)に比べ83.4%減となりました。

### 海外機器販売事業

海外機器販売事業は、中国においてはボイラ販売が堅調に推移しましたが、その他の国や地域においては、新型コロナウイルス感染症による行動制限などの影響でボイラ販売が低調に推移しました。この結果、当事業の売上収益は19,707百万円と前期(20,717百万円)に比べ4.9%減となりました。セグメント利益は、2,054百万円と前期(2,105百万円)に比べ2.4%減となりました。

### 海外メンテナンス事業

海外メンテナンス事業は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の影響はありましたが、各国での有償保守契約の積極的な提案による契約件数の増加や中国での低NOx規制対応により売上を伸ばしました。この結果、当事業の売上収益は7,173百万円と前期(6,484百万円)に比べ10.6%増となりました。セグメント利益は、1,236百万円と前期(784百万円)に比べ57.6%増となりました。

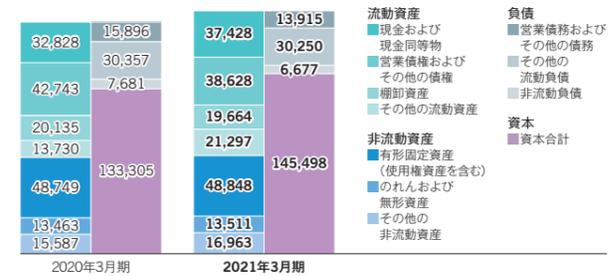
## 財政状態の状況

2021年3月期の資産合計は、前期末に比べ9,101百万円増加し、196,342百万円となりました。流動資産は、主にその他の金融資産が増加したことにより、7,579百万円の増加となりました。その他の金融資産の増加は、主に定期預金の増加によるものです。非流動資産は、主にその他の金融資産が2,923百万円増加したことにより、1,521百万円の増加となりました。

負債合計は、前期末に比べ3,091百万円減少し、50,843百万円となりました。流動負債は、主に営業債務およびその他の債務が減少したことにより、2,087百万円の減少となりました。非流動負債は、その他の金融負債が減少したことなどにより、1,004百万円の減少となりました。

資本合計は、主に利益剰余金が増加したことにより、前期末に比べ12,193百万円増加し、145,498百万円となりました。この結果、親会社所有者帰属持分比率は74.1%と、前期末に比べ2.9%の増加となりました。

### B/Sの推移



### 親会社所有者帰属持分比率の推移



## キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、前期比で収入が4,861百万円増加し、22,982百万円の収入となりました。これは主に営業債務およびその他の債務の減少による支出が増加し、かつ契約負債の減少による収入が減少したものの、営業債権およびその他の債権の減少による収入が増加し、かつ棚卸資産の増加による支出が減少したためです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前期比で支出が773百万円増加し、11,073百万円の支出となりました。これは主に投資の売却または償還による収入が増加したものの、定期預金の預入による支出および投資の取得による支出がそれぞれ増加したためです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前期比で支出が986百万円減少し、7,991百万円の支出となりました。これは主に長期借入金の返済による支出が減少したためです。

以上により、2021年3月期末における現金および現金同等物は、前期末と比べ4,599百万円増加し、37,428百万円となりました。

### キャッシュ・フローの推移

